



会設立 20 周年の時を経て

市原 美幸



桜花爛漫の候、例年では服装も軽やかにお花見へと出かける所ですが、今もなお、新型コロナウイルスの収束の目途が付かず、第4波の懸念も否めない状況にあります。続くコロナ禍、皆様はどのようにお過ごしでしょうか。

昨年は、新型コロナウイルス感染拡大により、患者会、5月の講演会や総会が中止となりました。収束しないまま一年が過ぎ、今年度は感染防止に留意しながら患者会や講演会・総会を行う方向で準備を進めています。

当会は2001年7月に府中がんケアを考える会として発足し、新年度は20年を迎えます。

第1回目の特別記念講演は、「がんと向き合ったとき、あなたならどう生きますか」と題して、当時聖路加国際病院名誉理事長、故日野原重明先生にご講演頂きました。

20年の時を経てこのテーマは変わりませんが、考え方や支援の在り方は時の流れと共に進展しています。

昨年12月の講演会では、自分が望む生活や治療を、繰り返し家族や知人等に話しておくという人生会議がテーマでした。

続いて新年度は、がんと向き合い、生きるために、がん治療の選択について、正しい知識を得ておくことも大切ではないかと考えました。

6月の講演会は、「がんの最新治療と標準治療、どちらを受けますか」と題して、勝俣 範之先生(日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科教授)にご講演頂きます。勝俣先生には、2018年に「がん診療の誤解を解く～知ってほしいがんの正しい知識」のご講演から3年の時が過ぎ、がん治療においても急速に変化しております。そして、最前線で診療を続けておられる勝俣先生が今でも多くの人が、がん治療について間違った考え方をしている事に警鐘を鳴らし続けておられます。

繰り返し伝え続ける事の必要性を感じると共に、コロナ禍でのがん治療や診療の現状を踏まえてのご講演となる事を私たちも楽しみにしております。

是非とも、一人でも多くの方に聴いて頂きたく、会場へのご来場やオンラインでのご参加をお申込み頂きますようお願い申し上げます。

末筆ではありますが、20年間にわたり活動を続けられているのは、設立当初からの会員の皆様はじめ、多くの会員の皆様、患者会の皆様のおかげでありますこと役員一同、心より感謝申し上げます。そして発足当初の役員の想いも継承しながら、一步一步前進して参ります。

引き続き皆様のご支援、ご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

☆☆

がんになって今思うこと

岸本 まり

〇はじめに

皆さんこんにちは。昨年後半会員になりました、岸本まりと申します。2017年春に乳がん罹患が判明、その時は北海道在住でしたが、仕事を休み、夫がいる東京で1年半ほど手術、抗がん剤治療、放射線治療とひと通りの治療を終えました。その後は一旦北海道に戻りましたが、去年春より東京で仕事をしています。

がんになったことで、命についてなど、色々なことをひたすら考える時期がありました。また、同病の友人と話す機会を多くもちました。また、家族にもたくさん助けられました。その時期を経て、自分なりの考えをもつことができました。この場で自分の考えを話せることを大変うれしく思います。

① 命について

初めの頃はひたすら恐怖でしかありませんでしたが、ある時病院からもらった血液検査の値を見て、その気持ちは一変しました。コレステロール値がとても高かったのです。

がんではない病気で突然命を落とす可能性が充分にあることを実感したその瞬間、私の死への恐怖は果てしなく軽くなりました。

② 前向きに生きる

ある時ふと気付いたのです。考えてもがん細胞は減らないということに。それからは、物事に悩みかけた時に、「考えてどうにかなることかどうか」と問い直す習慣がつかしました。もちろんがんのことは考えません。この考えにたどり着けて、今はすごく前向きです。

③ 生きる意味とは

一時期、CMなどに踊らされていた頃があったと感じています。「がんになったら何か輝かなければならない」というような。でも実際はそんな必要はなく、日々を過ごすだけで合格だと気付くことができました。

生きているだけで勝手に何かは残っていくし、仮に残らなかったとして、何も問題はないです。今の私の生きる意味は、日々をなるべく楽しく送ることです。

〇おわりに

もちろんがんにならない方がよかったです。それでも私はがんになったことで、生きる上での余計な荷物になる考え方をかなり下ろすことができたと考えています。この点については罹患したことに感謝すらしています。ただ、がんになっただけで、今のような考えに至ることができたとは考えておりません。たくさんの仲間と話すごとが絶対に必要でした。この会をはじめ、たくさんの患者会の輪が広がっていくことを心から願っています。私もこの会に入ったからには、微力ながらできることをしていきたいと考えています。コロナ禍で外出も躊躇しがちな昨今ではありますが、リモートなどの手段も工夫しつつ、会員の皆さまと話したいです。

今後ともよろしくごお願い致します。

お役立ちサイトを利用してみよう

ネット上には様々ながんに関する情報があります。ただ多くの情報サイトが根拠のない治療法への誘導であったり、高額の治療への案内であったりします。安心して利用できる三つのサイトをご紹介します。

がん情報サービス(国立がんセンター)



一度はご覧になったことがあるかもしれません。個別のがんの情報、治療・診断についてなど最初に知りたいことが出ています。生活・療養では食事、各支援制度の情報もあります。知りたい情報を探すのは少し複雑なところがありますが、ほぼすべての知識が網羅されています。

がんポータルサイト(東京都福祉保健局)



東京都の病院情報が充実しています。治療と仕事の両立に関するページは現役世代にお勧めです。がん以外の病気についても調べることができます。

日本ホスピス緩和ケア協会



会員の方なら一度はご覧になったことがあるかもしれません。ホスピスの歴史から、ホスピス探しまで。ホスピスと緩和医療に関する情報があります。

どの情報サイトもスマホがあれば見ることができます。今後も随時お役立ちサイトを紹介していきます。

第20回総会と講演会のご案内

府中がんケアを考える会
講演会 後援：府中市

6/27日 14:00 - 15:30
ル・シーニュ6階【プラッツ第2会議室】
東京都府中市高町1-100

講演：「がんの最新治療と標準治療、どちらを受けますか」
講師：勝俣 範之先生
日本医科大学武蔵小杉病院
腫瘍内科科長 副長 外来化学療法室 室長
NHK総合「総合診療医ドクターG」にも出演

参加費：800円(会員は無料)
参加方法：会場、または、オンライン(Zoom)にて

申込方法：受付メールアドレス、または、お電話にて
・出席：氏名・電話番号・メールアドレス
・参加方法(会場、または、オンライン)
・参加費の支払方法(事前振込、または、当日の会場でのお支払い)
※ 以上のことをお伝えください。2021年6月20日(日)締切

受付メールアドレス：koen@fuchugancare.org
電話番号：090-7729-4429 (担当：武智)

府中がんケアを考える会(府中市市民活動センタープラッツ 後援団体)
お問合せは、下記の電話、または、メール(ktakechi@fuchugancare.org)へ
武智 一雄 090-7729-4429
http://fuchugancare.org/index.html

6月27日講演会、定期総会日程

講演会

がんの最新治療と標準治療、どちらを受けますか

ル・シーニュ6階、第2会議室

午後2時～3時半(1時半開場)

講師 勝俣 範之先生

日本医科大学武蔵小杉病院

腫瘍内科教授・部長、外来化学療法室室長

参加費 無料(非会員は800円)

参加方法 会場、オンライン(ズーム使用)

会場参加は定員35名です。

事前に申し込みをしてください。

申込受付電話、メールアドレス

電話 090-7729-4429

メール koen@fuchugancare.org

住所、氏名、電話番号またはメールアドレスを明記ください。リモート参加の場合は、参加費の振込(非会員の場合)を確認次第参加IDをご連絡します。

総会 同じ会場にて4時開会

会計よりお願い

昨年度の会費納入をお願いします。総会会場かご連絡いただければ振込用紙を送付します。

2021年の予定

予定変更、中止になる可能性があります。いずれの催しも当面参加人数に制限があります。できる限り事前の確認、参加予約をお願いします。

日時	行事	会場
5月23日(日) 午後1時30分	患者会	プラッツ 第6会議室
6月27日(日) 午後1時30分	定期総会・講演会	プラッツ 第2会議室

編集後記

46号の発行が遅くなってすみません。昨年末から患者会にリモート参加を導入しました。まだ稚拙な運用ですが今後充実させていきます。コロナ禍は収まりそうもありません。府中市の知り合いも二人り患しました。仕事もままなりません。講演会・総会に向け進みましょう。

発行 府中がんケアを考える会・会報編集部

連絡先 183-0053 府中市天神町3-7-47 武智 一雄
電話 090-7729-4429 Mail: ktakechi@fuchugancare.org